

特集 今だから考えたい!! 防災

近年、地震・台風・集中豪雨といった天災が全国各地で相次いで発生しています。本年7月の熊本地震や8・9月の千葉県内での記録的豪雨など、激甚化する自然災害への備えが重要です。

「自助・共助・公助」について、いざという時、身を守るために考えよう！

自助 自分で災害に備えよう

STEP① まずは、地域の「災害リスク」を知ろう！

情報の入手方法を知ってますか？

平時はハザードマップで危険な区域を確認するとともに、災害時は以下の方法で最新情報を取得しましょう。

必ず確認！
リスク ハザードマップ
を見てみよう



市HP

情報

「キキクル」で浸水害
や危険度の高まりが
確認できます



気象庁キキクルHP

河川の水位・
雨量情報は
こちら▶



県HP

まずは、自助！自分の命を守ることが大切です。平時からSTEP①～③を考えておこう！

情報を得ることが、次の判断につながります。

危機管理防災課
小林明雄危機管理監
(地域防災マネージャー)



STEP② 備蓄品をそろえよう！

食料・水

まずは、各ご家庭で3日分以上(推奨7日分)の食料・水を日頃から備蓄しよう。

イメージしてみよう！

発災後
1～3日目

冷蔵庫、冷凍庫内、買い置き
の食料を食べる。



4～7日目

備蓄食品(常温)を
食べる。

※カセットコンロとボンベを備えれば、
レトルト食品なども食べられます。



普段食べているものを
少しでも多く買って
置き、定期的に無駄なく消費

その他備蓄品

さあ、確認！



- ☐生活用水 タンクで保管など
- ☐トイレ用品 携帯トイレ、簡易トイレ、汚物保管用容器、トイレ袋、トイレットペーパー
- ☐燃料 カセットコンロ、ガスボンベ、固形燃料
- ☐毛布・寝袋 狭いスペースでの休息・防寒対策など
- ☐食品用ラップ 食器に敷いて節水対策、包帯の代用など

【トイレ対策】

災害時の**トイレ対策**は非常に重要です。水が出ない、水が流せないなど、普段使っているトイレが災害時は使えなくなる可能性があります。そんな時の携帯トイレの使い方・捨て方を紹介します。※凝固剤を入れるタイミングは製品により異なります



①便器にポリ袋をかぶせる。



②その上に用を足すためのポリ袋を設置し凝固剤を入れる。



③用を足した後、上のポリ袋のみ取り出し、空気を抜いて口をしぼる。



④脱臭袋に入れて空気を抜いて口をしぼる。災害時は燃えるごみで処分してください。



トイレの回数は1人1日約5回で想定し、家族の7日分以上備蓄しよう！
4人家族の場合は約140回分が必要！自宅にあるか、チェックしてみよう！

STEP③ 避難を考えよう！

避難場所はどこかな？

自宅の周りに危険な場所(川や崖)はないか確認をして、避難場所を選定(2つ)しましょう。避難先までの行き方も確認することが大切！

マイ・タイムラインを作ろう！

マイ・タイムライン(水害時の避難計画)は、災害が起きたときに、いつ、どのような行動をとるかを時系列で整理した「自分専用の避難計画」です。市ハザードマップに様式を掲載しています(最後のページ)。

ハザードマップで災害リスクを確認しながら、平時にマイ・タイムラインを考えておくことが大切です。

家族内の連絡の取り方も決めておこう！



共助

みんなで助け合おう

共助は大切？

大規模災害時には、公的機関の「公助」(公的機関の救助・援助活動や支援体制)までに時間を要します。そこで重要なのが「共助」です。災害時に円滑に助け合いができるように自治会の防災訓練や日頃からの住民同士の交流が命を守ることに繋がります。

隣近所の助け合いって？

平成7(1995)年に発生した阪神・淡路大震災では約3人に1人が近所の人に救出されたと言われています。

本市においても災害に備え、地域では自発的に自主防災組織を結成し、単位自治会、近隣自治会合同、地区全体で防災訓練を実施しています。隣近所との関係性を日頃から築くことで、災害時に助け合うことができます。



4町合同防災訓練の様子
(箭弓町・幸町・美土里町・和泉町町内会)

地域の防災リーダー・防災士にインタビュー

自主防災組織リーダー 清水栄一さん(大岡地区在住 防災士)

市の研修、防災士を目指したきっかけ 区長の時に地区の防災訓練などに積極的に参加し、防災への興味・意欲がありました。引退後、自治会の防災役員となり、推薦を受けて市の研修を受講し、市補助金を活用して防災士の資格を取得しました。

どんな活動をしているか 大雨の翌日、地区内を回って安全確認をし、倒木などがあった場合は、必要に応じて行政へ連絡をしています。当自治会には防災担当が3人います。自治会各戸に「住民カード」を作成いただき、各戸に何人住んでいるのかを把握し、有事の際、救助や避難確認をできるようにしています。

今後の抱負は これからも自治会内の防災意識を高め、ひいては大岡地区全体の防災意識向上につなげていきたいです。防災仲間を増やしていけたらいいですね。

防災士の資格取得に市補助が活用できます

市が実施する自主防災組織リーダー養成研修・応用編(全3回)を修了し、自主防災組織で活動する意思のある人が対象です。

皆さんに伝えたいことは まずは、自分の命を守ること！それからでないと家族、近所の人を助けることはできません。公助を担う市職員も被災者となり災害対応が厳しい可能性があります。その中で、地区の皆さんと避難所運営などに積極的に参加し、防災士の知識や経験を生かしていきたいです。



地域の防災リーダー

消防団

【消防団とは】

本業(仕事や学業など)を別に持ちながら、平時は消火、防災訓練、応急手当の指導、啓発活動を行い、災害時は火災の消火活動や、地震・風水害時の救助・避難誘導を行います。

共助の果たす役割

白田さん 地域の訓練や行事に参加し、防災・防火の普及に努めています。

豪雨などの災害発生可能性がある時は、地域内を警戒パトロールします。

「自分たちの地域は自分たちで守る」、消防団の役割は重要です。

地域のつながり

田口さん 隣近所の人に「この前の防災訓練で頑張ってたね😊」とか、防災服を着て家を出ると「今日は何の活動？」などと、声を掛けられることが多いです。消防団の活動の中で、地域に皆さんとのつながりを感じます。このつながりが災害時に強みになると思います。



東松山消防団
左：第一分団 白田一則さん(団体職員)
右：団本部 田口紀子さん(会社員)

入団を考えている人へ ～メッセージ～

あなたの力を東松山消防団で活かしてみませんか。私たちが暮らす東松山市を一緒に守っていきましょう。



比企広域HP

魅力

白田さん 普段では知り合えない、年齢も仕事も違う仲間に出会えたことは、人生で大きな財産です。

応急手当などを学び、その技術と技能を、いざ、という時に役立てることができる。

家庭・仕事との両立

田口さん 出産・子育て中は、活動をお休みし、また活動ができるタイミングになったら、復帰することができます。融通がきくので、とても活動しやすい環境です。



公助

災害に強いまちづくりを目指します

ここからは、日頃から皆さんに「自主避難所とは?」「市の備蓄品は?」「市職員はどんな訓練をしているの?」「避難所に冷暖房は?」など、お寄せいただく疑問について市の状況をお知らせします。

Q

最近、自主避難所が開設されるけど、ほかの避難所との違いは?

自主避難所は、避難指示等の情報を市が発令する前に自主的に避難を希望する人が、親戚や知人宅などの安全な避難先がない場合に利用できる「一時的な避難所」です。台風や豪雨など、水害対策での開設が多く、災害への警戒が必要な段階で開設します。開設避難所の違いは下表のとおりです。

種類 (箇所数)	自主避難所 (7か所)	指定緊急避難場所 (36か所)	指定避難所 (33か所)	福祉避難所 (10か所)
主な目的	避難指示等の情報を市が発令する前に、自主的に避難する場所です。	居住者等が災害から命を守るために緊急的に避難する施設又は場所です。	避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設です。	一般の避難所では生活することが困難な高齢者、障害者その他の特に配慮を要する人のための避難所です。
物資等について	市の備蓄品等の提供がないので、各自で用意してください。	市の備蓄品が支給されます。	避難所の場所▶ 市HP	
その他	各地区市民活動センター(高坂市民活動センターを除く)、高坂図書館です。	状況に応じて、指定避難所に移行します。	利用にあたっては、市と施設等が事前に調整を行います。	

※避難する際は、市HP等で開設状況を確認しましょう。

Q

市はどこにどんな備蓄をしているの?

災害発生時の迅速な物資供給を実現するため市内36か所の避難所と、10か所の福祉避難所に防災倉庫、さらに、岩鼻運動公園駐車場には、中央防災倉庫を設置し、食料及び生活必需品・資機材等の備蓄を行っています。

《各避難所の備蓄品》

区分	主な備蓄品目
食料等	アルファ米、クリームサンドビスケット、おこげ、栄養補助食品、保存水、粉ミルク、アレルギー対応粉ミルク、使い捨て哺乳瓶など
生活資機材等	非常用トイレ、パーティションルーム、段ボールベッド、簡易ベッド、災害用マット、毛布、衛生用品など



パーティションルーム



自動ラップ式トイレ



エアベッド



段ボールベッド



市HP

《中央防災倉庫の役割》

平時には中長期的な避難や復旧活動に必要となる物資を集約・管理し、災害時には支援物資等を一括管理する拠点となります。

災害時の物資輸送を円滑に実施するため、フォークリフトなどの荷役機器を配備しています。



上：中央防災倉庫内
右：フォークリフト

Q

市職員はどんな訓練をしているの?

《発電機等の試運転・IP無線機を使用した通信訓練》

各防災倉庫を1か月に1回、避難所担当職員が点検を行います。その時に実施する訓練です。

《避難所開設訓練》

発災時にスムーズに避難所開設ができるように、避難所担当職員を対象に行っている訓練です。

受付からトイレや段ボールベッドの組み立て、物資の配置など、同時進行で行う実践的な訓練です。



避難者の受付



段ボールベッド組み立て

Q

避難所に冷暖房はあるの?

熊本地震でも避難所となる体育館の空調(冷房)設備がないことが課題とされていました。本市では、令和7～9年度にかけて指定避難所となる市内の全小・中学校の体育館に空調設備の設置を計画的に進めています。

最後に!!

ここまで「自助・共助・公助」の視点から防災の取組について紹介してきましたが、家庭、地域また季節によって準備するものも変わってきます。皆さんの家庭でも何が必要か、ぜひ話し合ってください。「助かる」ための近道は、知識で終わらず実践することです。まずは「一歩」を踏み出しましょう!



市HP



特集に関する問合せ 危機管理防災課 ☎21-1405 FAX 22-7799